

**「肥のあけぼの」の高品質果実安定生産のための適正葉果比**

「肥のあけぼの」の適正着果量は葉果比30枚であり、収穫果実のML級果率が高く、クエン酸含量は低い。また、次年度の着花および着果は安定し、累積収量も多い。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者: 藤田賢輔)

## 研究のねらい

「肥のあけぼの」は果皮先熟傾向があり、成熟期に着色の進行は良好であっても、酸含量が高く、収穫の遅れや浮皮・腐敗果発生を来す場合がある。また、着果ストレス付与による高品質果実生産を行うため、着果過多に起因するとみられる着花・着果不良年を生じる例もある。

そこで、品質良好な果実を安定生産するための着果量と果実品質および収量について明らかにする。

## 研究の成果

1. 収量および階級別個数割合は、葉果比30枚区（以下30枚区）でML級果率が最も高く、収量は葉果比20枚区（以下20枚区）について多い。20枚区は収量が最も多いもののS級果以下の割合が高く、葉果比40枚区（以下40枚区）はML級果率は30枚区について多いものの収量が最も少ない（表1、図1）。
2. 果実品質は果肉歩合、果汁歩合およびBrixに葉果比間の差はない。クエン酸は30枚区および40枚区は同程度で低く、20枚区は高い（表1）。
3. 次年度の着花は、40枚区が最も多く葉花比も低い。30枚区は40枚区について多く、20枚区は最も少ない。着果は着花と同様な傾向であるが、葉果比は30枚区と40枚区が同程度で低い（表2）。
4. 2ヶ年間の累積収量は30枚区および20枚区が多く、30枚区は年次間の差が少ない。40枚区は年次間の差は少ないが、累積収量が最も少ない（図2）。
5. 30枚区はML級果率が高く、クエン酸が低い。また、次年度の着花および着果は安定しており、累積収量も多い。

## 普及上の留意点

1. 本試験結果は、根域制限シートマルチ栽培の結果1～2年目のものであり、通常のマルチ栽培や結果年数により適正葉果比は変動する。

表1 「肥のあけぼの」の葉果比の違いが収量および果肉品質に及ぼす影響 (2004年)

| 葉果比 | 収量     |       |        | 分析果重  | 果肉歩合 | 果汁歩合 | Brix | クエン酸    |
|-----|--------|-------|--------|-------|------|------|------|---------|
|     | 個数     | 重量    | 平均重    |       |      |      |      |         |
|     | 個      | kg    | g      | g     | %    | %    |      | g/100ml |
| 20枚 | 248.7a | 24.2a | 97.8a  | 100.0 | 75.2 | 78.0 | 11.4 | 0.833a  |
| 30枚 | 167.3b | 21.5a | 128.7b | 108.8 | 78.1 | 77.4 | 10.9 | 0.661b  |
| 40枚 | 131.0b | 17.6b | 136.2b | 109.2 | 79.1 | 74.4 | 11.0 | 0.652b  |
| 有意性 | **     | *     | **     | ns    | ns   | ns   | ns   | **      |

注1) tukeyの多重検定により異文字間に有意。

注2) 葉果比設定は2004年7月30日。

注3) 2004年10月25日収穫、調査。

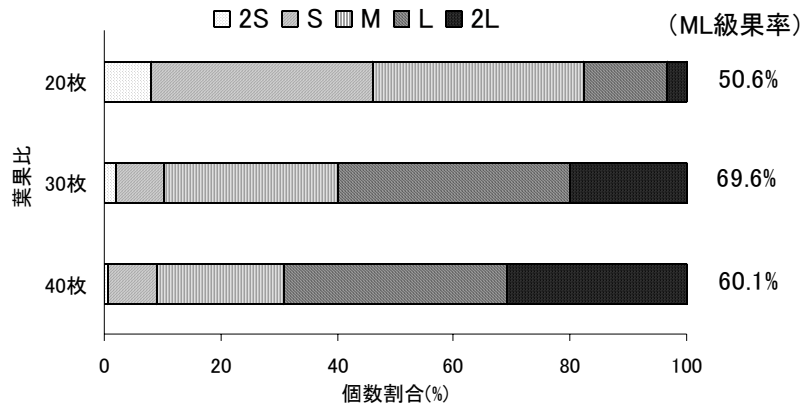


図1 「肥のあけぼの」の葉果比の違いが収穫果実の階級別個数割合に及ぼす影響 (2004年)

表2 「肥のあけぼの」の葉果比の違いが次年度の着花・果に及ぼす影響 (2005年)

| 葉果比 | 着葉   |       | 着花   |       | 葉花比   | 着果   |     | 葉果比 a |      |
|-----|------|-------|------|-------|-------|------|-----|-------|------|
|     | 新葉率  | 全葉数   | 有葉花率 | 全花数   |       | 有葉果率 | 全果数 |       | 着果率  |
|     | %    | 枚     | %    | 個     |       | %    | 個   | %     |      |
| 20枚 | 48.7 | 134.9 | 79.1 | 4.5b  | 45.6b | 84.7 | 3.4 | 75.6  | 49.3 |
| 30枚 | 58.0 | 149.2 | 67.6 | 17.8a | 18.0a | 72.0 | 4.6 | 34.8  | 20.9 |
| 40枚 | 54.1 | 150.8 | 53.6 | 28.9a | 7.1a  | 49.2 | 7.1 | 29.4  | 21.6 |
| 有意性 | ns   | ns    | ns   | *     | *     | ns   | ns  | ns    | ns   |

a : 生理落果後の葉果比

注1) tukeyの多重検定により異文字間に有意。

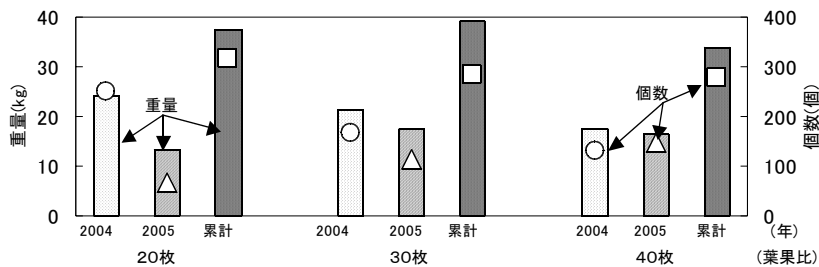


図2 「肥のあけぼの」の葉果比の違いが収量に及ぼす影響  
注1) 2004年に葉果比設定